

変革を続けるネットワークソフトウェア技術論文特集の発行にあたって

変革を続けるネットワークソフトウェア技術論文特集編集委員会

委員長 角田 良明



インターネット、携帯電話ネットワークの普及に始まり、モバイルネットワーク、アドホックネットワーク、センサネットワーク、P2Pネットワークなど様々なネットワークが出現し、ユビキタスネットワーク社会が実現しつつある。このような社会では、従来の端末だけでなくセンサやタグから発生する膨大な情報も扱うスケーラブルでセキュアなネットワークでなければならない。

一方、Web 2.0では利用者がソフトウェアやWebサービスを組み合わせる新たなコンテンツやツールを作成できるようになっている。また、クラウドコンピューティングのように、利用者の様々な要求を満たすアプリケーションやプラットフォームなどを安価に提供することも可能となっている。このようにネットワークの利用法が多様化するにつれて、ネットワークサービスの高度化に対する要望は更に強くなっている。

その結果、様々なネットワークにおいて多様で高度なサービスを提供することが、ネットワークに求められている。このようなネットワークを実現する基盤技術として、ネットワークソフトウェア技術の研究の重要性はますます高まっている。

このように変革を続けるネットワークソフトウェア技術について、研究を促進するためには、意見交換や情報提供を推進する場を設ける必要がある。前者の場として、ネットワークソフトウェア時限研究専門委員会が主催する「ネットワークソフトウェア研究会」では、研究発表と同じ時間を質疑応答にあて、議論を深く掘り下げて行うことにより、研究内容の改善、研究展開の方向などの指針を得るように活動している。ま

た、後者の場として、変革を続けるネットワークソフトウェア技術論文特集では、ネットワークシステム・サービスに関連するソフトウェア技術に関する最新の研究成果を提示している。

本特集では、対象分野の論文を募集したところ、16編の論文が投稿されてきた。これらの論文に対して時間をかけて公平かつ厳格な審査を行った結果、7編の論文が採録されるに至っている。

これらの論文のテーマは、携帯電話ソフトウェア更新のためのプログラム圧縮高速化方式、リアルタイムグループ通信におけるメディア同期方式、モバイルアドホックネットワークにおける新しいルーティング方式、オペレーション誤りからの迅速復旧を実現する運用管理手法から、サービス連携プラットフォームに基づくビル警報通知連携システムの開発、通信放送融合配信システム最適化モデルの評価、Web-テレコム連携プログラミングのためのソフトウェア開発ツールの評価まで幅広い。いずれの論文もネットワークソフトウェア技術の方式、開発、評価に関する最新の優れた研究成果をとりまとめたものであり、今後のネットワークソフトウェア技術の研究や開発に役立てて頂ければ幸いである。

最後に、本特集の発行にあたり、貴重な研究成果を論文として投稿して頂いた執筆者の方々、ボランティアとして時間を割いて査読を行って頂いた査読委員の方々、査読結果の総合判定や筆者への回答文の作成など本特集のために御尽力頂いた編集委員の方々、及び適切な事務処理を迅速かつ正確にこなして頂いた事務局の奥村梨奈様に深謝の意を表します。

かくだ よしあき
 角田 良明 (正員) 昭53広島大・工卒, 昭58同大大学院工学
 研究科博士課程了, 同年国際電信電話(株)入社, 平3阪大・基
 礎工・助教授, 平10広島市立大・情報科学・教授, ネットワー
 クソフトウェア, アシユアランスシステム, アドホックネット

ワークの研究に従事, 平元電気通信普及財団賞, 平4本会情報ネ
 ットワーク研究賞受賞, 博士(工学), 情報処理学会, IEEE各
 会員.

変革を続けるネットワークソフトウェア技術論文特集編集委員会

委 員 長	角 田 良 明
幹 事	新 津 善 弘 ・ 水 野 修
委 員	青 木 道 宏 ・ 石 田 賢 治 ・ 太 田 理 ・ 萩 野 長 生
	笠 井 裕 之 ・ 加 藤 圭 ・ 白 戸 宏 佳 ・ 中 野 雄 介
	中 村 光 宏 ・ 三 宅 優 ・ 若 原 恭